

リビング便り

11月号

「人生の先輩のために」をモットーに

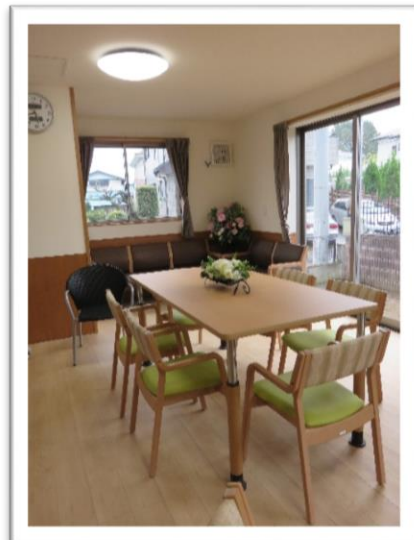


〈建物施工：桧家住宅三栄〉

開設のご挨拶

リビングケアが提唱する今後は、病院ではなく地域で高齢者の方々を見守っていく仕組みが主流となります。これは、かつての大家族制や隣組などで、家族関係、近所関係が濃密であった時代では当たり前なことだったかも知れません。そうではなくなった現代において、住まい、介護、看護、食事を常に提供できる体制のもとで、「小規模の住まい」のもと理学療法士、作業療法士が身体機能の回復を目指して活動、参加を促進する仕組みは新しい介護、これからの日本の理想的なモデルです。

株式会社リビングケア
代表取締役 桑原 尚人



機能回復対応型施設リビングケア「唯の郷愛甲石田」オープン

リビングケア唯の郷 愛甲石田は、要介護認定1～5の方々のクオリティ・オブ・ライフを保ちながら、国民年金並みの低価格で入れる新しいタイプの介護老人福祉施設です。

高齢化が進む日本において、介護を必要とする高齢者の方々は年々、増加しています。今後この勢いは止まらず介護を必要とする高齢者の方々を大幅に増える見込みで、社会としてどう見守っていくかが課題です。

こうした、介護を必要とする高齢者の方々のための施設としては、次の表にあるような施設が挙げられます。しかし、国民年金並みの低価格で入居できる施設となると、「サービス付高齢者向け住宅」、「ケアハウス（軽費老人ホーム）」、「特別養護老人ホーム」など受け皿が極めて限られています。

| | 種類 | 入居金 | 月額 | どんな施設？ |
|---------|-----------------------|----------|----------------------|--|
| 有料老人ホーム | 介護型 有料老人ホーム | 0～数千円 | 15万～35万円 | 介護や食事など日常生活サービス提供。要介護専用。 |
| | 自立・混合型 有料老人ホーム | 0～数千円 | 15万～35万円 | 介護が必要ない自立した人も入居可能。 |
| | 住宅型 有料老人ホーム | 0～数千円 | 15万～30万円 | 介護は必要ないが、家事が面倒、生活が不安と考える高齢者専用 |
| 一般住宅 | シニア向けマンション | 数千円～1億以上 | 賃貸で10万～100万 | 高齢者対象の分譲、または賃貸 |
| 地域密着型 | 認知症対応型共同生活介護（グループホーム） | 0～数百万円 | 13万～20万円 食費4万円含 | 要介護1以上で認知症の高齢者専用の小規模施設 |
| 介護保険施設 | 特別養護老人ホーム(特養) | 不要 | 6万～15万円 低所得者軽減措置有 | 要介護1以上で在宅介護が困難な人のための公的施設 |
| | 老人保健施設(老健) | 不要 | 13万～15万円 医療費全額含 | 要介護1以上で医療的な介護やリハビリを行い自宅復帰を目指す |
| | 介護療養型医療施設(療養病床) | 不要 | 18～20万円 | 要介護1以上の長期入院施設 |
| 老人福祉施設 | ケアハウス(軽費老人ホーム) | 不要 | 7～15万円 | 公共機関が運営する比較的安価な老人ホーム、60歳以上で入居可能。要介護状態になると外部在宅サービス利用、重度は退去。 |
| 高齢者向け住宅 | サービス付高齢者向け住宅 | 0～数百万円 | 7～20万円 4万円食費含 | 高齢者に配慮した設計の賃貸住宅。管理人が常駐し介護が必要な場合は訪問サービスを受ける |

特別養護老人ホームの入居待ち者

特養の「入居待ち」人数

原則、昨年10月1日時点

| 要介護 | 全体 | 在宅で暮らす人 | 介護施設や病院で暮らす人 |
|-----|---------|---------|--------------|
| 2以下 | 17万7526 | 10万6106 | 7万1420 |
| 3 | 12万5683 | 6万5777 | 5万9906 |
| 4 | 12万1449 | 5万1166 | 7万283 |
| 5 | 9万7030 | 3万4885 | 6万2145 |
| 合計 | 52万1688 | 25万7934 | 26万3754 |

厚生省労働省調べ

全国に7,800施設ある特別養護老人ホームは、利用者の方の負担を抑え入居できる代表的な施設です。その現状を見てみると、2013年時点で入居を待っている人は52万人を超えています。前回行われた4年前の調査から10万人(24%)も増加しており、限られた施設にどうやって入居するかが、ケアを必要とする人を家族に持つ方々たちにとって深刻な問題となっています。

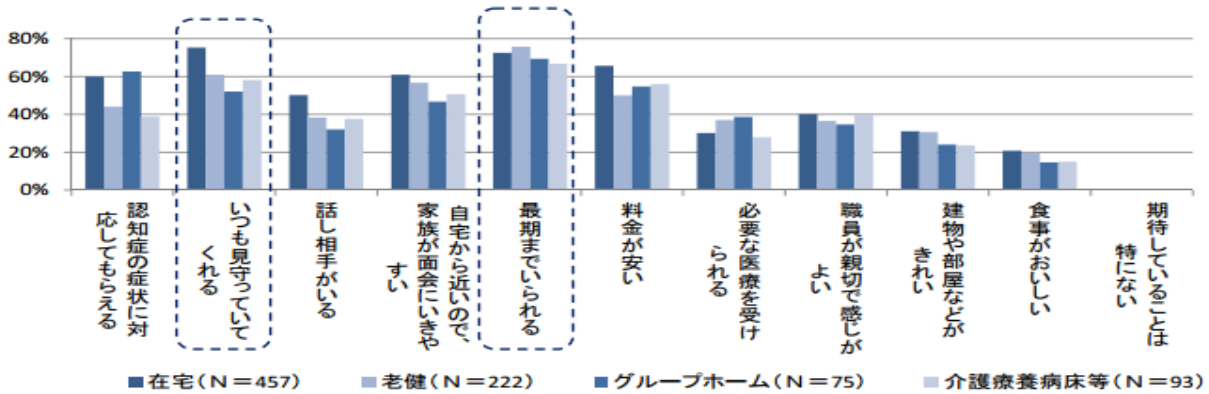
また、受けられる医療サービスは限りがあり、夜間の医療対応や常時医療対応が必要な方などは対応が難しいなどの課題もありました。

リビングケア唯の郷 愛甲石田はこうした課題と利用者の方のニーズに対応するために作られた、新たなタイプの介護老人福祉施設です。

特別養護老人ホームなど、これまでの介護老人福祉施設にはなかった365日24時間対応を行う施設です。介護だけでなく、ご利用者の機能回復につなげていくことも施設運営の基本に掲げております。理学療法士、作業療法士の専門家集団がアセスメントを行い、弊社訪問看護、訪問介護、居宅支援事業所、施設管理者による個別ケアを行っています。入居時にご利用者様の要介護レベルや症状に応じて一人一人の方に合わせたケアプランをテラーメイドで作成し機能回復に向けたリハビリを行うというこれまでになかった特徴を持っています。

厚生労働省が平成24年に行った「特別養護老人ホームにおける待機者の実態に関する調査研究事業 ～待機者のニーズと入所決定のあり方等に関する研究～」では、ご利用者様のご家族が特別養護老人ホームに期待するものとして、「いつも見守っていてくれる」「最期までいられる」について「料金が安い」ということが挙げられています。

家族が特別養護老人ホームに期待するもの



平成24年厚生労働省調べ

リビングケア唯の郷 愛甲石田は、365日24時間対応で、しかも77,000円という月額費用で入居ができ、こうしたご利用者様のご家族のニーズも満たせるものです。国民年金を受給されている方でも安心して利用できる、リビングケアが提案する介護老人福祉施設の新たな形です。

驚異の機能回復を生み出すリビングケアの新たな介護モデル

リビングケアが提案する老人介護福祉施設の新たな形“唯モデル”は、介護を必要とする高齢者の方々の機能回復につながっています。その事例の一つをご紹介します。

この事例は、回復の一例にすぎません。ご入居を検討の方、医療関係者の方、改善事例についてご興味のある方は、是非、お問い合わせを頂ければ幸いです。

リハビリ事例

- ・ 75歳・男性
- ・ パーキンソン病・脳梗塞 (右麻痺・構音障害有)
- ・ 介護度5
- ・ 目標
 - ①ADL向上 (寝たきりからの脱却)
 - ②嚥下訓練 (自力でのお食事を目指す)
- ・ リハビリテーションの内容

週3回の訪問介護により食事介助、歩行介助を行い、生活リハビリとしても毎日行う。モニタリング、アセスメントを繰り返して訪問介護週1回と生活リハビリ中心に行う。

 - ・ 改善内容 (経過期間10週間)
 - ①食事全介助から自力での経口摂取成功
 - ②10週間で独歩可能まで回復

嚥下訓練

リハビリ開始



①全介助

3週間後



②自分から取るうとされる

5週間後



③介助にてコップで摂取

7週間後



④介助なしでの摂取

9週間後



⑤手でおにぎりを召上がる

12週間後



⑤スプーンで召上がる

理学療法士、作業療法士が積極参加する新たな老人介護福祉施設の形

リビングケア在宅プロジェクト推進委員長 大工谷 新一

【理学療法士、博士（スポーツ科学）、大阪府理学療法士会会長】

人間の生活機能（生活していく力）は、その人自身の機能（病気や障がいの有無、年齢や性別など）と周囲の方々や環境によって決まります。

また「健康」は、単に身体や心に病気がないというだけでなく、人間としてどのような活動をし、どのような役割を持っているかで大きく変わります。たとえ障がいや病気があっても、人間として健康な生活を送っている人もいればそうでない人もいます。

リビングケアでは、ご入居者さまの障がいや病気、加齢などにもなう身体機能の低下に対して、今ある機能を最大限に活かして生活するというを大切に思っています。そのためには、理学療法士や作業療法士が身体機能の状況を把握し、少しでも機能がよくなるためのお手伝いをします。具体的には、簡単な機能訓練プログラムを作ったり、普段のお世話の仕方を工夫したりして、少しでも生活機能を上げる（元気になる）ための関わりをしていきます。

では、生活機能を上げる（元気になる）ことで、何が変わるのでしょうか。ただ単に長生きするためだけのもののでしょうか。最初にも書きましたが、生活機能を上げる（元気になる）ことの目的は「人間としての健康な生活を送ること」です。生活機能を少しでも良くする（元気になる）、あるいは生活機能を維持することによって、ご入居者さまの意欲を引き出し、何かをしたいという思い（活動意欲）を持っていただきたいと思っています。そして地域に密着した「小規模の住まい（家）」である利点を活かして、家や地域での役割を持って、再びいろいろな活動をしていただきたいと思っています。

編集後記・予告

リビングケアが提案する新たなケアの形を実現する「唯シリーズ」。今後、関東エリアを中心に展開を進めて参ります。来年7月までには、海老名門沢橋、小田原、南足柄など湘南エリアでの新規開設を目指して準備を進めております。リビング便りでは、今後、こうした新規開設についてもご紹介していく予定です。リビング便り12月号は、リハビリ事例を交えて独自のケアシステムについての特集を予定しており、12月15日発行の予定です。



株式会社リビングケア

入居のご相談・お問い合わせは

▶▶▶ **入居相談室**まで
受付時間 / 平日(月~金曜) 9:00~18:00

神奈川県下唯一の介護事業での経営革新認定企業

 **0120-252031**

Eメール info@livingcare.jp

発行：株式会社リビングケア 運営部 広報

横浜市西区北幸2-8-19横浜西口Kビル7階

TEL：045-620-2006 FAX：045-620-2032

URL：<http://www.livingcare.jp>